

2023 年度 昭和大学 II 期

【 講 評 】

大問 4 問だった昨年度に対し、今年度は大問 2 問の構成。問題数は減ったものの、大問 1 の文章は、哲学者の文章で抽象度が高く、選択肢、記述問題とも難解といえる。また、大問 2 も、バレエという普段あまり触れることのない内容の文章であることに加え、記述問題も多いため、難易度が高い。

したがって、普段から抽象度の高い文章を読解し、内容を正確に把握する練習をしておくだけでなく、旧帝大など国公立 2 次で出題される記述問題を解く経験を積み重ねておく必要がある。

【 解 答 】



設問 1 エ

設問 2 ウ

設問 3 ア

設問 4 一般的に人々は、一枚の絵を、単なる絵具の集積としてではなく、何か意味のある作品として捉えていること。

設問 5 エ

設問 6 垂直方向に発達する巨大な雲を坊主頭の化け物にたとえること。

設問 7 エ

設問 8 オ

設問 9 人の振舞いは、肉体とは別の心や意識によってではなく、筋肉や肉体自体の動きによってなされるものだから。(50 字)

設問 10 エ

設問 11 イ

設問 12 外にあらわれた振舞いや応答そのものが「他人の痛み」(25 字)

設問 13 姿

設問 14 3

設問 15 a=胎内 b=叙 c=口辺 d=仏頂面 e=脅



設問 1 イ

設問 2 ウ

設問 3 ノヴェールは、バレエの表現を重視するため、様式美や妙技に批判的だったという意味。

設問 4 本来王権の絶対性を表現することが目的だったバレエをテクニック偏重から表現重視へと立ち返らせたノヴェールが、実は王政を倒壊させる時代の流れに乗っていたという意味。(80字)

設問 5 ノヴェールが芸術を目指していたことと革命家が共和制を目指していたことは、理想を求める点において共通していたという意味。(59字)

設問 6 ノヴェールの頭に存在していた理想のバレエを二十世紀にニジンスキーが実現したこと。(40字)

お問い合わせは ☎0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>